

食鑑に、水戸赤土の産を著然る時は天正の頃、タバコ島より渡りて、大隅國贈嗚郡國府へ植、又慶長頃、西洋の種を長崎へ栽しものか、其後丹波の笹山、攝州服部、和泉河内、及中國筋、信州埴科郡、甲州小松、上州山名館、奥州邊迄、諸國種せざるといふ事なし。野州、常州は、遙後年の産地なり。江戸にておほく吸へるところの、武州秩父の名葉出初しは、四十年以來、又信州生坂は、三十年にたらす。昔服部を第一の名産とすれども、あじはひ辛烈故、今は國府を極上品となす。芬郁なるが故、高價しなり、和柔を好めるものは、館を良とす、辛とも香氣を好者は、舞留を上品とす。

〔烟草百首 頭書〕烟草諸國名産

大隅 贈嗚郡

國府 砂走 車田 武元 龍王 伊勢ヶ屋舖 砂ヶ町

大隅の名産にて諸葉の最上とす、薫り高く風味佳、國分寺の境内に産する葉勝れて美味也、其故に國分の名あり、産する地聊なる故販賣するに足す、皆贈嗚郡の内より出る、薩摩の産といふは誤也、島國府と云は薩摩の國の部也、葉形も賤く下品とす、一體此國暖なる故、中春種蒔、夏土用明頃曝乾、初秋には江戸へ積出、故に葉に粘脂なく、火を點するにうつりよく消ざるを賞す、三四年圍置、古葉になる時は薫り勝れて美也、價高し、葉に力ありて、細刻するに碎けざる、故髻たばこの名あり、

長崎は初て栽し土地なれども、至て下品なり、日向の葉形に似たり、

攝津 島下郡

服部 塚脇 西河原

山城 乙訓郡

石津